

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演) 出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	しゃかいふくしほうじんとととききん		団体ウェブサイトURL
	社会福祉法人トット基金		http://www.totto.or.jp
代表者職・氏名	理事長 黒柳徹子		
制作団体所在地	〒 141-0033	最寄り駅(バス停)	JR大崎駅
	東京都品川区西品川2-2-16		
電話番号	03-3779-0233		
ふりがな 公演団体名	にほんろうしゃげきだん		団体ウェブサイトURL
	日本ろう者劇団		http://www.totto.or.jp/02/index.html
代表者職・氏名	江副悟史		
公演団体所在地	〒 141-0033	最寄り駅(バス停)	JR大崎駅
	東京都品川区西品川2-2-16		
制作団体 設立年月	昭和55年 4月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	理事長:黒柳徹子 理事8名 評議員10名 監事2名		劇団員:22名 劇団代表:江副悟史 顧問:井崎哲也 加入の条件:ろう者または手話のできる18歳以上の男女
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	金田弘明
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	小池紀子

本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	info@kyougen.mail-box.ne.jp
-------------------------	--

制作団体沿革	<p>1980年 ろう者による「東京ろう演劇サークル」を発足。</p> <p>1981年 黒柳徹子より「窓ぎわのトットちゃん」の著作権を受領し、社会福祉法人トット基金が設立。</p> <p>1982年 トット基金の付帯劇団となり「日本ろう者劇団」と改称</p> <p>1983年 イタリアで開催された「世界ろう者会議」で手話狂言を初披露</p> <p>1987年 新しいジャンルの演劇を作ったとして文化庁芸術祭賞を受賞(手話狂言)</p> <p>2000年 創作視覚演劇「カスパー」において主演の池田大輔が芸術祭新人賞を受賞</p> <p>2002年 内閣総理大臣表彰受章</p> <p>2004年 「ギリシャにおける日本文化年2004」に参加し、アテネで「手話狂言」の公演</p> <p>2015年 ローマ、パリにて国際手話で手話狂言の公演を行う。(文化庁国際芸術交流支援事業)</p> <p>2019年 首相官邸で手話狂言を披露(安倍総理と障害者との集い)</p> <p>2020年 国立能楽堂主催公演として「手話狂言」を上演</p> <p>2020年～2021年 さどの島銀河芸術祭参加「手話狂言」を上演</p> <p>2021年 東京オリパラ2020『インクルーシブNIPPON Shinagawa発2020能・狂言特別公演』</p> <p>2021年 第35～36回国民文化祭・第20～21回全国障害者芸術祭参加(宮崎県・和歌山県)</p> <p>2021年 三宅右近氏と日本ろう者劇団 第31回催花賞 受賞</p>	
学校等における 公演実績	<p>1988年度 品川区三ツ木小学校公演体育館(PTA主催)</p> <p>同年度 品川区立大崎中学校体育館 演目「二人袴」「しびり」</p> <p>2005年度 田園調布雙葉中学校講堂 演目「附子」「梟山伏」</p> <p>2008年度 同上</p> <p>2009年度 長野県小諸市芦原中学校体育館 演目「梟山伏」「附子」</p> <p>2011年度 田園調布雙葉中学校講堂 演目「梟山伏」「附子」</p> <p>2014年度 同上</p> <p>2017年度 同上</p> <p>2021年度 田園調布雙葉中学校講堂 演目「附子」と手話狂言ワークショップ</p> <p>同年度 三ツ木小学校体育館 演目「附子」と手話ワークショップ</p>	
特別支援学校等 における公演実績	<p>2008年度 県立高知ろう学校 手話狂言「附子」</p> <p>2017年度 中央ろう学校、坂戸ろう学園、大宮ろう学園、明晴学園</p> <p>2018年度 旭川ろう学校、中央ろう学校、横浜市立ろう特別支援学校、大宮ろう学園、明晴学園</p> <p>2019年度 中央ろう学校、葛飾ろう学校、横浜市立ろう特別支援学校、大宮ろう学園、明晴学園</p> <p>2020年度 中央ろう学校 ワークショップ7回(12月～2月)、茨城県立水戸ろう学校 手話狂言「梟山伏」</p>	
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	有
	※公開資料有の場合URL	https://youtu.be/kHEQZAPZbvs
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID: PW:

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 日本ろう者劇団】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	楽しく手話を学ぼう 手話狂言「附子」			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>◆第一部 手話狂言「附子」</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前のワークショップとは一転して、体育館に設けた本格的な能舞台をご覧ください。 お話: 狂言の見方、手話狂言の魅力、「附子」のあらすじなどを、狂言師が実演を交えながら、わかりやすくお話しします。(20分) 手話狂言「附子」の上演: ろう者劇団の俳優による手話の演技に、狂言師が言葉をあてて、聞こえる人も聞こえない人も同じように鑑賞していただきます。(20分) <p>休憩(15分)</p> <p>◆第二部 手話狂言ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークショップ: 狂言の所作・台詞、手話狂言の演技を鑑賞者全員で体験します。(25分) Q&Aコーナー: 生徒からの質問に出演者が答えます。(10分) <p>演出: 三宅右近/構成・監修・振付: 三宅近成</p> <p style="text-align: right;">公演時間 90 分</p>			
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名	手話狂言「附子」
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	内部保有
演目概要	<p>◆出演: 太郎冠者、次郎冠者、主人</p> <p>ろう者の俳優による手話の演技に、狂言師が声を当てることによって、聞こえる人も聞こえない人も同じように楽しめる、「手話狂言」の代表作の一つです。会場に設置した能舞台の上で、したたかに、たくましく生きる中世の人物像が笑いとともに描かれます。(別添-手話狂言)</p>			
演目選択理由	<p>「一休さんのとんち話」の原型であり、国語の教科書にも採用されていた演目です。</p> <p>登場人物の生き生きとした対話、扇であおぎながら附子に近づく大胆なしぐさ、おいしそうに砂糖を食べる表情、掛け軸や天目茶碗を壊す時の擬音(効果音)の面白さに、生徒たちは何もない能舞台の上で繰り広げられる出来事に、大いに想像力を膨らませます。そして「附子」を食べてしまった二人の機智に富んだ言い訳に、思わず声をあげて笑ってしまうことでしょう。平易な話し言葉で演じられる狂言の魅力がいっぱいにつまった作品です。(別添-附子)</p>			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<ul style="list-style-type: none"> 事前のワークショップで習った手話がどのように手話狂言の中で用いられたのか、みなさんに尋ねていきます。 ある場面を、狂言と手話の演技で見比べながら、手話狂言がどのような稽古を経て演じられてるのか知ってもらいます。 狂言の代表的なセリフ「このあたりのものでござる」という名乗りを手話で演じましょう。 さらに理解を進め、全体が二手にわかれて、手話狂言の台詞の掛け合いを演じてもらいます。 狂言や手話についてのいろいろな疑問について丁寧にこたえてゆきますので、出演者に積極的に質問していきましょう。(別添-手話狂言WS) 			
出演者	<ul style="list-style-type: none"> 日本ろう者劇団 井崎哲也、江副悟史、五十嵐由美子、小泉文子、砂田アトム、廣川麻子、數見陽子、鈴まみ、長谷川翔平、五日市十夢 手話通訳 田家佳子、井本麻衣子、小松智美、長谷川さとみ 狂言方と泉流 三宅右近、三宅右矩、三宅近成、金田弘明 など、以上のうち10名。(別添-出演者) 			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 10 名 スタッフ: 4 名 合計: 14 名	運搬	積載量: 2 t 車長: 4.7 m 台数: 1 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出
	10:00	10:00~12:30		13:30	10分	15:00	17時00分
	※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。						

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	18日	16日	10日	16日	17日	
	11月	12月	1月	計	121日	
	16日	16日	12日			
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。						

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	全校生徒(制限なし)
		鑑賞人数目安	全校生徒(制限なし)

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



体育館フロア上に能舞台を設置した場合です。

正面から見る他にも、脇正面(能舞台横から)、中正面(能舞台斜め方面から)と、舞台を取り囲むようにして手話狂言をご覧ください。

本来の能楽堂を体験できます
鑑賞する生徒と近い目線で演じるため、演者と観客との一体感を味わえることでしょう。

舞台設営スペース：
体育館端より幅12m×奥行き9mです。

※ステージ上に楽屋を設けます。また、体育館縦向きでの設置が基本となりますが、体育館の形態、観客数によって、横向きの設営も可能です。



体育館ステージ上に能舞台を設営した場合です。

観客数が500人以上といった大人数の際に、広くご鑑賞いただけます。

ステージの規模に応じて能舞台を設営しますので、特に規定は設けません。

※楽屋はステージ左側の体育館フロア上に設けます。(3m×6m)
ステージ袖にしかるべきスペースがある場合はそちらを楽屋にいたします。

【公演団体名 日本ろう者劇団 】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	10人～800人
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>①導入くろう者に出会う>(10分) 講師の自己紹介。全て手話で話し、手話通訳が声で話しをすると説明します。 ・日本には、ろう者が何人いるか質問→答えは100万人 ※ろう者は、思ったより身近な存在であり、また外見だけでは分からない障害であることを説明します。</p> <p>②ろう者とのコミュニケーション(15分) クイズ1◆目の前に聞こえない人がいる。どうやって呼びかける?◆ →3人程前に出てきてもらい、言葉を用いずに、どうしたら気づいてもらえるか実際にやってみよう。 ※ろう者とのコミュニケーションの仕方を自分で考え行動することを学んでもらいます。</p> <p>クイズ2◆講師2人が口型(単語)をみんなに見てもらい、何と言っているか読み取る◆ →読み取った単語を発表してもらおう。 ※正解は[橋]ですが、回答は愛・貝・はい・カニ等々です。口の形だけで読み取る口型では判断しづらい言葉があることを、ろう者の身になって実際に体験し、理解してもらいます。</p> <p>③手話教室く手話狂言の公演に出てくる手話単語を覚える>(20分) ・好き・嫌い 甘い・辛い 美味しい・まずい 1～10の数字 等の基本的な手話を学ぶ。 ・応用として、皆さんの年齢や、今日は何日など、手話で答える。 ※国や地域によって手話が異なることや、手の動きに表情が加わることで意味が補完されることを学びます。また、手話狂言に用いられる手話を覚え、本公演で発見する喜びも味わってもらいます。</p> <p>-----休憩 (10分) 自由に講師たちとの交流を持ってもらいます。-----</p> <p>④ゲームく身振りで伝える方法を考え行動する>(35分) ・ルール説明:2人組を作る。一方がお題を見たら、言葉を用いずに、身振り手振りでお題を知らない相手に伝える。伝えられた方は、お題は何だったか、挙手で答えてもらう。 ・お題は、[すいか][ライオン][りんご][新幹線][恐竜]等。 ※「伝えたい」という気持ちを大事にすることから、表現力を高め、双方の不理解の壁を壊し、コミュニケーションを図る自信をつけてもらいます。</p> <p>・最後に「ありがとう」の手話を覚えてもらい、お互いに挨拶をして終了。(別添-事前WS1,事前WS2)</p>		
ワークショップの ねらい	<p>普段、子供たちにとって「ろう者」と実際に会って、コミュニケーションをとる機会は決して多いとは言えません。ワークショップを通して、ろう者を前に「どうしたらいいかわからない」という不安を取り除いて、「通じた」という喜びを味わってもらいます。</p> <p>「ろう者」は目に見えない障害者であるため、会ったことがないと思っている人も、もしかしたらどこかですれ違っているかもしれないということを知ってもらい、音に無反応な人がいたら、ろう者かもしれないという気付きを持つきっかけにしたいと思います。</p> <p>また、ゲームなどを通してコミュニケーション方法は様々あることを学び、この体験が「ろう者」のみならず、様々な障がいを持つ人々や外国人、ひいては自分と異なる「他者」への理解へと繋がり、子供たちの未来に活かすことができたらと思います。</p>		
その他ワークショップに 関する特記事項等	<div data-bbox="438 1738 798 2029" data-label="Image"> </div> <p>事前ワークショップでは、特に舞台を設けず、子供たちとの境界をなくし、ホワイトボード(学校所有を拝借いたします)を用いて、手話のさまざまな表現、コミュニケーションのあり方を説明していきます。</p> <p>手話通訳を介して、時には生徒に質問したり、逆に質問されたりなどしながら、全体とのコミュニケーションを豊かに図りながら進行していきます。</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名

日本ろう者劇団

】

①本事業に対する取り組み姿勢

・概要

日本ろう者劇団の俳優と和泉流狂言師との共同作業による、手話狂言「附子」の鑑賞から、古典芸能の魅力学び、手話表現によるコミュニケーション能力向上をめざします。

・手話に親しむ

ろう者とのコミュニケーションツールとして知られる手話ですが、聞こえる人たちのなかで実際に使いこなせる人は残念ながらまだまだ多いとはいえません。ろう者たちの社会進出が目覚ましい成果を上げている近年、まずは気負わずに、ろう者と対峙できるように、手話にふれてもらうことを目的としています。

また手話は単にろう者のための言語という側面だけではなく、手話を用いたライブパフォーマンスが聞こえる人、聞こえない人の境なく、若者たちを中心に注目を集めています。ろう者の俳優を中心に設立以来40年あまりの歴史を持つ日本ろう者劇団は、その草分け的存在でもあります。彼らによる手話ワークショップは聞こえる人、聞こえない人、ともに定評があります。手話を覚えるだけでなく、手話という身体表現の面白さや芸術性などを知ってもらえるよう、ワークショップを通して取り組みます。

・狂言に親しむ

日本古来からの伝統芸能であり、世界文化遺産にも登録されている狂言は、子供から大人まで楽しむことができる「笑い」の芸能です。狂言は、全国の小学校六年生の国語の教科書に掲載されていますが、実際には小学校一年生の低学年から楽しんで鑑賞していただいております。

体育館には本物さながらの能舞台を設置します。わかりやすい解説を交えながらの公演で、まずは笑って楽しみながら狂言を鑑賞することが伝統文化への理解をより深めてゆくきっかけとなるような公演となるよう取り組みます。

・手話狂言に親しむ

狂言は舞台セットをほとんど用いない、何も無い空間である「能舞台」の上で演じられ、その場面は、演者の台詞と動きだけで表現されます。そして狂言は笑いの芸能です。鑑賞者は楽しみ、笑いながら、演者の動きと言葉だけで、気づかぬうちに想像力を働かせ、多くの情景を能舞台に見いだしてゆきます。

そして言葉の芸能といわれる「狂言」は、せりふの緩急や抑揚の自在な使い分け、室町以来に培われた発声方法が大きな特徴です。これを手話で演じるにあたって、せりふの緩急や抑揚を手話に取り入れるために、試行錯誤を繰り返しながら、さまざまな工夫を凝らしております。狂言そのままの型・動きに加えられた手話表現に、狂言師がマイクで声をあてる手話狂言は、あたかも手話そのものが声を発しているようだという感想をいただいております。

ろう者劇団の俳優と狂言師との共同作業によって演じられる手話狂言は、子供から大人まで、聞こえる人も聞こえない人も、共に楽しむことのできる、古くて新しい芸能です。手話狂言を楽しんで観ていただくとともに、ワークショップやQ&Aコーナーでは、ろう者劇団の俳優や狂言師との交流の中から、皆さんには伝統芸能の面白さと、手話表現におけるコミュニケーションの大切さを学んでいただけるような公演をつくりあげるよう取り組んで参ります。(別添-感想例)

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

・事前に学校側とヒヤリングを行い、人数や会場の規模に応じて、ワークショップのあり方や、能舞台設置における段取りなどをご相談させていただきます。

・事前のワークショップではろう者劇団の俳優、狂言師、手話通訳が同行します。その際に、本公演におけるどんな細かい疑問や要望でも相談していただければと存じます。当団体は、小学校、中学校、高校の学校公演のほか、特別支援学校の公演経験が豊富にありますので、さまざまなご要望にお応えできます。

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫

手話狂言とは



能楽について

わが国の代表的な伝統芸能である能と狂言は、およそ700年前の室町時代初期に成立したもので、両者は合せて「能楽」（のうがく）という名称で呼ばれています。近年、能楽は、舞台芸術として国内外で高い評価を得ており、2001年にはユネスコの世界無形遺産の一つに選ばれています。

狂言について

狂言は「笑い」の劇、喜劇です。能とは対照的に中世庶民社会の日常や、民間説話を素材として、普遍的な人間像を描き出しています。洗練された骨太の芸は、和やかな楽しい笑いをもたらしてくれます。



手話狂言

狂言のセリフは室町時代から江戸時代までの古いことばです。昔から継承された狂言特有の動き、運びをそのままに、手話表現の研究を重ね、古典芸能にふさわしい手話狂言を作ることにつとめました。

狂言方 和泉流・重要無形文化財保持者、三宅右近氏の指導のもと、手話のセリフと声のタイミング、間の取り方にも工夫を重ね、古典芸能の強靭さと、手話の豊かな表現力をあわせもつ、手話狂言が誕生しました。

狂言の台詞を、手話と声の両方で、表情豊かに表現しますので、聞こえる人も聞こえない人も同じように楽しむことができます。

演目選択理由

ぶす
手話狂言 附子



ご主人さまから留守番を言いつけられた太郎冠者と次郎冠者。
主人は手桶を持ち出し、「この中には、その毒氣にあたっても死んでしまうほどの猛毒『附子』が入っているから、気をつけて番をするように」と言いつけます。

『附子』を前に二人は興味津々。
なんとか手桶の中を見ようとして、毒氣に当たらないように扇であおぎながら『附子』に近寄り、手桶の蓋を開けました。



中に入っていたのは何と砂糖。
当時砂糖は大変な高級品なので、主人は二人に食べられないように、中身が「附子」だと嘘をついていたのです。砂糖とわかってしまうと、たちまち二人は平らげてしまいました。



砂糖を食べてしまった言い訳をしようと、二人はご主人の大切にしていた掛け軸やお茶碗などのお宝をこわして、嘘泣きをします。
いったい二人はご主人に、どんな言い訳をするのでしょうか？



演目概要

演者は能舞台という何もない空間の上で、附子や掛け軸、天目茶碗など、そこにないものをあたかも存在するように演技をします。そこには室町以来の伝統を受け継ぐ、厳しい稽古によって培われた型を要します。
手話狂言を実際に鑑賞してみると、古来からの研ぎすまされた型の演技に加えた、手話表現の多彩な魅力に気づかれます。手話の知識がなくても、観ているうちにだんだんと手話の内容が感覚的に理解できるようになってくる体験をぜひ味わってください。
わかりやすい言葉と、たのしい動きのある手話狂言「附子」は、手話を理解する入門編としても最適な演目です。

手話狂言ワークショップ



手話狂言「附子」を見て

事前ワークショップで覚えた手話が手話狂言の中に出てきました。
わかった人はみなさんの前でその手話を発表してみましょう。



狂言と手話狂言

狂言の一場面を、狂言と手話狂言それぞれで演じてみます。
「名乗り」「道行き」といった狂言の代表的な場面が、
どのように演じられるのか、同じ場面が手話狂言になると、
どのように表現されるのか、その違いを見比べてみましょう。



このあたりのものでござる

“児童・生徒の共演、
参加又は体験の形態”



セリフに挑戦

代表的な狂言の名乗りのセリフ、
「このあたりのものでござる」を、
たった一言ですが、手話の速度、
動きの大きさに気をつけて演じてみましょう。



手話狂言を演じてみよう

最後に狂言の一場面を皆さんに演じてもらいます。
二つのグループに分かれて、
狂言のセリフの掛け合いを、手話で演じてみましょう。



手話狂言「附子」をご覧になったところで、事前ワークショップで習った手話の確認をします。そして手話狂言がどのような稽古によって成り立っているのかを説明し、日本ろう者劇団の俳優と、狂言師との二人三脚で演じる様子を舞台上で実演します。鑑賞の生徒には手話狂言を実際に演じてもらうことで、自己の表現力を高めるほか、Q&Aコーナーでは出演者に積極的に質問をすることによって、コミュニケーション能力の向上を目指します。

リンク先

No.2

【公演団体名

日本ろう者劇団

】

社会福祉法人トット基金 理事長 黒柳徹子よりご挨拶



日本ろう者劇団のレパトリーの中で、最も力を入れているのが手話狂言です。なにもかも手探りの「世界ろう者演劇祭典」(1983年)に参加したイタリアのパレルモが、はるか昔のこのように思えます。あれから、演目も少しづつ増え、日本各地、世界各国のお客様に喜んでいただいています。「狂言って、こんなに面白いって知らなかった！」見終わった後、こうおっしゃるお客様がたくさんいらっしゃるのも嬉しいことです。とにかく楽しんでいただけることは絶対です。ぜひ、ご覧いただき

～ 主な出演者・講師紹介 ～

日本ろう者劇団代表・江副悟史（えぞえさとし）



両親・兄ともにろう者の家庭で育つ。2008年、社会福祉法人トット基金(理事長:黒柳徹子)付帯劇団「日本ろう者劇団」入団以降、視覚演劇公演および手話狂言公演に多数出演。2017年より当該団体代表に就任。東京オリンピック・パラリンピック関連イベントにも携わり、手話狂言を披露。演者としては勿論、劇団代表として様々な分野でのろう演劇普及に尽力、現在に至る。その他経歴として、2009年NHK「こども手話ウィークリー」にて最年少キャスターとして抜擢。その後NHK「ハートネット」「ろうを生きる難聴を生きる」「手話で楽しむみんなのテレビ」など福祉番組に多数出演。映画やドラマなどの出演、手話指導・監修にも携わる。NHKBS「しずかちゃんとパパ」では主演・笑福亭鶴瓶氏への手話指導を行い、「第48回放送文化基金賞」にて同番組が優秀賞を受賞、笑福亭鶴瓶氏も演技賞を受賞した。俳優・手話指導のほか、年間50本ほどの講演もこなし、全国各地で活動の場を広げている。

日本ろう者劇団・砂田アトム（すなだあトム）



県立松山ろう学校小学部の時から演劇に興味を持ち舞台に立つ。1999年「カスパー」以降、「永遠の一夜」、「ある砂の家族」、「翼のない天使」に客演。2002年手話狂言「鐘の音」初舞台とともに入団。2003年～2010年各自主人公演に出演。劇団外でも映画、舞台、テレビ、ビデオで活躍している。現代劇・時代劇・コメディなどジャンルは幅広く、舞台監督や舞台美術もこなし、イラスト個展も開催。2013年仏クランドイコ演劇祭招待作品「アトムのひとり芝居」は世界各国からの参加者で大盛況、国際的にも活動の幅を広げている。

日本ろう者劇団・鈴まみ（すずまみ）



1996年入団。同年アトリエ公演「デブ・パラダイス」でデビュー。手話狂言、創作劇に多数出演。2003年～2005年制作も担当。外部出演では1998年イスマシオ「乗合馬車のキップ」、2000年みずノ卵公演vol3「コクトーの遺言」、2002年風の市プロデュース・シアターX提携公演「雨月」、2002年演劇企画室千里魚眼「アルトの黙示録」他、2010年劇団しゅわえもん「ブンナよ、木からおいでこい」、2011年「あらしのよるに」、2017年うごく作品VOL.1、2019年VOL.10、2019年濃淡公演VOL.01に参画。2020年全日本ろうあ連盟創立70周年記念映画に出演。座・高円寺劇場創造

狂言方和泉流・三宅近成（みやけちかなり）



能楽師狂言方和泉流。祖父は人間国宝・世三宅藤九郎。父、重要無形文化財保持者・三宅右近に師事。3歳で「柑子伎」にて初舞台に出演して以来、2004年「三番叟」、2007年「釣狐」、2012年「金岡」、2015年「花子」といった秘曲、大曲を披く。能楽堂の能会その他、全国の会館での一般公演、小中高校生対象とした芸術鑑賞教室などに多数出演。狂言方としての活動の他にも、オペラ、現代劇にも出演する傍ら、落語や紙切りなどの演芸やミュージカルとのコラボレーション企画もプロデュースしている。手話狂言には自ら手話を用いて日本ろう者劇団の指導にあたる一方で、2014年の手話狂言公演「初春の会」の「髭櫓」でシテを勤めた。2016年より行われている「手話能」では、能の出演者が手話と同時にセリフを言う全国でも初めての試みが行われ、以降、全公演に間狂言として出演、高い評価を得る。公益社団法人能楽協会会員及び東京支部常任理事。社会福祉法人トット基金理事役員。

出演者

事前ワークショップの様子

日本ろう者劇団の講師たちが声なし手話でお話します。

手話通訳が生徒たちとの会話の手助けをします。



ワークショップ
実施形態及び内容



全国でおよそ100万人の「ろう者」がいます。思ったより身近な存在である「ろう者」とのコミュニケーションをどのようにとるかを問いかけながら、全員で考えていきます。



目の前を歩いている「ろう者」に、
どうやって気づいてもらう？

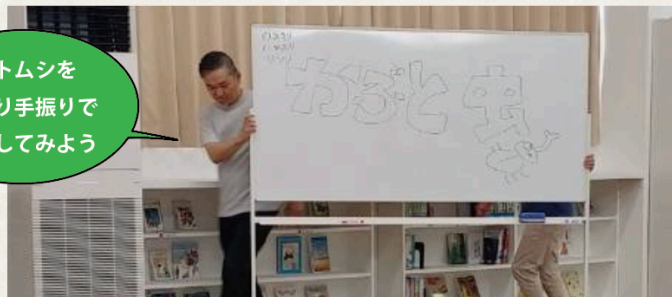
普段は当たり前に行えることでも、どうやって声を発することなく、耳の聞こえない「ろう者」に気づいてもらえるか、代表の生徒に考えてもらい、みんなの前で実演してもらいます。

ろう者は見た目にはわかりづらい障がい者なので、会ったことがないと思っている人も、もしかしたらどこかですれ違っているかもしれない。道路で自転車のベルに無反応な人がいたり、スーパーで店員さんから「袋いりますか?」と聞かれても無視している人がいたら、ろう者かも知れない、そうした例をあげて、実際にどうコミュニケーションをとっていくかを考えて行動することが狙いです。

事前ワークショップの様子

コミュニケーションの技術を一歩進め、身振り手振りで表現する。

カブトムシを
身振り手振りで
表現してみよう



カブトムシ、スイカ、新幹線など、お題として講師から出されたものを、身振り手振りで相手に伝え、それがなんであるかを当ててもらいます。



言葉と声を使わずに、相手に何かを伝えるコミュニケーションの手段を個々で考え、表現することから、手話を覚えることに繋がっていきます。

ワークショップ 実施形態及び内容



休憩時間では、講師の周囲に生徒たちが集まって、普段の生活について質問をしたり、覚えただけの手話を披露するなど、自然な交流が生まれます。

初めて会って自己紹介をする時点では、生徒さんたちは緊張気味です。ワークショップを進め、ゲームなどをしていくうちに、言語は違っても伝えようとする気持ちを持って接すれば意思は通じ合えるということを学びます。始めは恥ずかしがっていても、どんどん動きが大きくなり、ろう者の講師を見る表情も生き生きとしていきます。いくつか覚えた手話単語が、次回の手話狂言で台詞として出てくるので、覚えておくように伝え、本公演をより一層興味深く楽しみにしてもらえますようにします。

リンク先

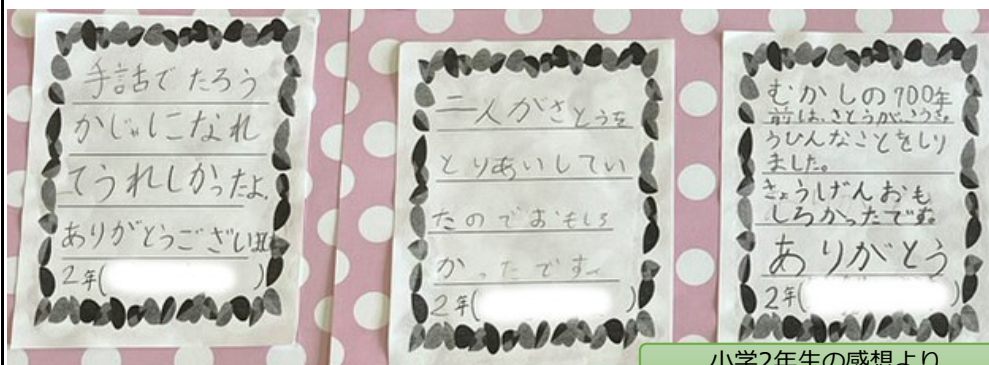
No.4

【公演団体名

日本ろう者劇団

】

～ 生徒からの感想例 ～



小学2年生の感想より

まず、率直に思ったのは手話狂言は普通の狂言と比べて、演じている方の表情がわかりやすく、手話も何ともわからない係りでもみんなよく理解することですが、物語がみんな頭に入ってきた。一番印象に残ったのは、砂糖を取り合っている部分です。

「附子」の内容も一気に引き込まれて、すごく面白かったです。砂糖を食べた後、二人で言い訳を考える場面が私の心に入りです。どのような手話をされるのか手をよく見たり、手話ニュースで見ると、会話のための手話ではなく、一つ一つの動作が舞台上に映える「魅せる手話」と思いました。

中学生の感想より

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫

手話狂言で古典芸能に触れる

日本ろう者劇団が公演／ワークショップも実施／音羽中学校で

2022/09/28

豊川市立音羽中学校で27日、文化庁による文化芸術による子供育成推進事業の巡回公演があり、日本ろう者劇団による手話狂言の発表とワークショップが行われ、全校生徒278人が参加した。

手話狂言はろう者の俳優たちが手話を使って古典の世界を演じ、同劇団は40年前から活動している。体育館のステージに能舞台が設置され、団員らが代表的な古典芸能「附子（ぶす）」を披露。猛毒の附子が入っているとされたおけには実際には砂糖があり、これを食べってしまった2人の家来が主人に怒られまいと画策する喜劇を、手話と感情表現とスピーカーから発せられる音声で表現した。

公演に先立ち、生徒たちにはあらかじめ手話を学ぶ時間を設けられ、両手を広げて揺らすことで拍手を送るなどして参加した。団員による解説もあり、狂言では発する声の大きさや太さでさまざまな人や動物を表現したり、砂糖が高級な食べ物として重宝されていた時代背景などを説明した。

君（3年）は「迫力もあって面白かった」と振り返り、君（3年）も「音声と体の動きが合っていてプロだなと思いました」と話していた。



生徒たちの前で手話狂言を披露する日本ろう者劇団のメンバー



生徒たちは教わった手話で拍手を送る